

札 前 E 遺 跡

— 平成13年度 中山間地域総合整備事業渡島西南地区
第1号集落農道改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査報告 —

2002・3

北海道松前町教育委員会

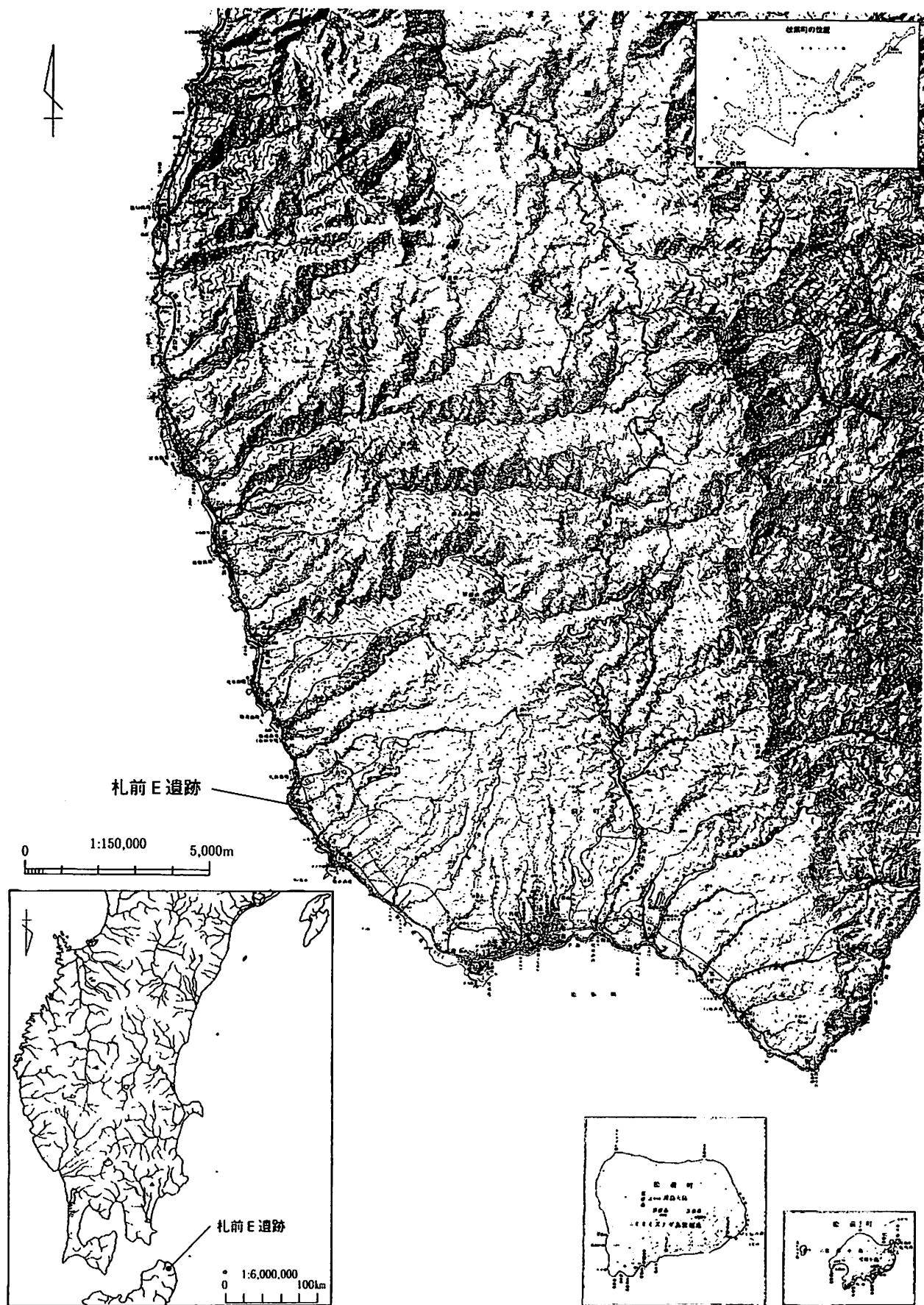
例 言

- 1 本書は、平成13年度に松前町が実施した、中山間地域総合整備事業渡島西南地区第1号集落農道改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査を報告するものである。
- 2 発掘調査は、平成13年9月25日から平成13年11月8日までの期間実施し、整理作業については平成13年11月12日から平成14年3月27日までの期間実施し、それぞれ下記の体制で行った。
調査主体者：松前町教育委員会 教育長 成田 稔
調査担当者・調査員：文化財課調査係長 前田正憲
発掘調査作業員：河田敬子、竹内照子、松川笑美、槻館正子、皆月ユキ、福井栄子、斉藤秋子、高橋キヌ子、坂本麗子、室田一美、船木のぞみ、松谷圭子、高山ノブ子、坂本瞳、川森国弘、福井紀子、小田トミ子、堀川良子、阿部雪美、堀めぐみ、渡辺直美、平沼由美子、小林早苗、横浜政子
- 3 本書の編集・執筆・写真撮影は前田が行なった。
- 4 遺構実測図の整理・トレースは松川（笑）が行なった。
- 5 土器の復元・拓本・実測・トレースは室田、渡辺、平沼、小林、横浜が行なった。
- 6 石器の実測・トレースは松谷、船木、松川が行なった。
- 7 調査期間中、次の諸期間から御指導・御協力をいただいた。
渡島支庁、北海道教育委員会、渡島教育局、函館市教育委員会、七飯町教育委員会、戸井町教育委員会、南茅部町教育委員会、木古内町教育委員会、知内町教育委員会
- 8 調査に関する諸記録・資料は、松前町教育委員会が保存・管理する。

目 次	
例言・目次	i
I はじめに	1
1 調査の経緯と経過	1
2 調査状況	1
3 調査の方法	3
4 調査の成果	3
II 調査結果	5
1 遺跡の概要	5
2 出土遺構	5
3 出土遺物	6
III まとめ	6
報告書抄録	12

挿 図 目 次	
第1図 遺跡位置図	ii
第2図 調査位置図・遺構配置図	2
第3図 TP-1, TP-2	4

写 真 図 版	
図版1 調査状況	7
図版2 遺物出土状況1	8
図版3 遺物出土状況2	9
図版4 Tピット出土状況	10
図版5 調査終了状況	11



第1図 遺跡位置図

I はじめに

1. 調査の経緯と経過

中山間地域総合整備事業（農道整備）は、基幹となる国道から、一般道路、そして町道、さらに林道がネットワークされ道路網が形成されている中で、農道エリアにおける未整備な路線について、それを改修整備することによって、農畜産物の生産効率の向上とともに地域の利便性を兼ね備えた農業基盤整備を行なうことを目的としている。今回この地区は、館浜集落から札前集落を結ぶ路線で、幅員が狭く、営農の支障となっていることから計画された。

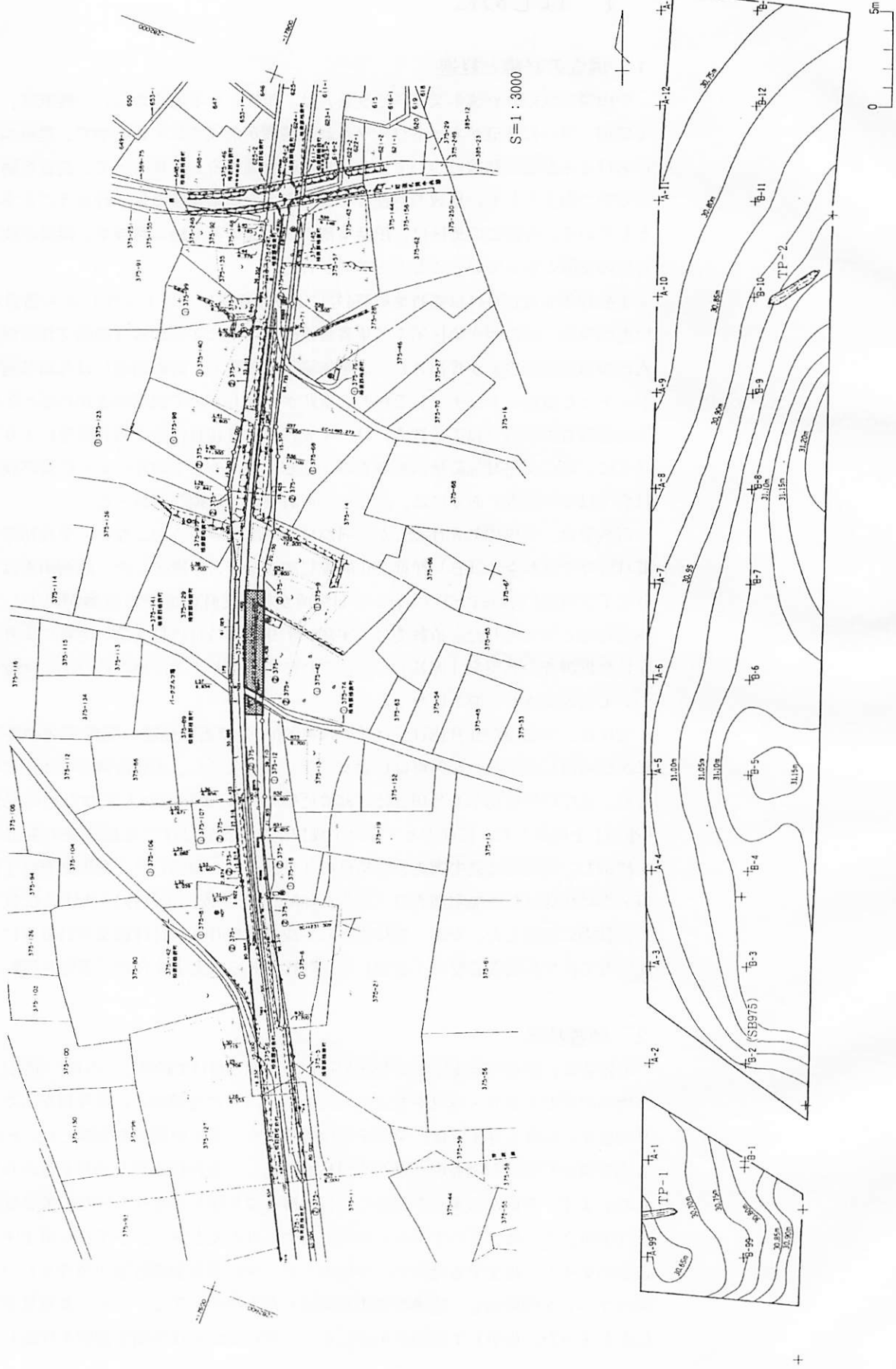
平成12年5月10日付け渡耕地第274号により渡島支庁（以下支庁）から道営中山間整備事業 渡島西南地区第1号集落農道改良工事にかかわる「埋蔵文化財保護のための事前協議書」が提出された。事前協議の段階で、計画路線には札前E遺跡・トッチョC遺跡・トッチョD遺跡の3遺跡が存在したので試掘調査が必要となった。北海道教育委員会（以下道教委）は、平成12年6月16日付教文第4155号により支庁あてに、埋蔵文化財包蔵地試掘調査の「通知」が、そして同号により松前町教育委員会（以下町教委）あてには、同じく試掘調査の「依頼」があった。

町教委は、平成12年8月22日から同23日まで試掘調査をおこない、平成13年8月27日付けで道教委に（B）埋蔵文化財確認調査報告書を提出した。試掘調査は、切り土工法地区1,613mについて行い、11箇所から縄文時代前期の遺物が出土し、遺物散布地と考えられた。道教委は、平成13年9月14日付け教文第4402号により、支庁に発掘調査の必要を「回答」した。これにより切り土工法地区のうち、492㎡について発掘調査が必要となった。

支庁は、平成13年9月18日付け渡管理第990-1号で当該地区の発掘調査の委託依頼を松前町に要望し、松前町は松教文号でこれを受託し、実施計画書を支庁に提出した。支庁は平成13年9月19日付け渡耕地第900号により土木工事のための発掘の「通知」を提出した。松前町と支庁は平成13年9月25日付けで発掘調査の委託契約を締結し、町教委は発掘調査を締結日の9月25日から開始した。発掘調査終了後、町教委は埋蔵文化財発掘調査の「報告」（58-2）を平成13年11月13日付け松教文号で道教委に提出した。なお、道教委から平成13年11月16日付け教文第5181号により支庁あてに発掘調査必要の「通知」と、町教委あてに工事立合の「通知」があった。

2. 調査状況

町教委は、松前町と支庁との委託契約が9月25日付けで締結したのち、事前にリース物品の手配や道具・器材を整えていたので、直ちに発掘調査に取り掛かった。9月25日から10月6日までは、発掘予定地の草刈り・表土の掘削を実施した。そして、表土を剥いだ所から調査のための方眼杭を設定し、包含層調査を10月9日から開始した。まず、南側から調査を開始し、包含層（第Ⅱ層）を掘り下げた。第Ⅱ層黒色土（黒ボク土）は、その上半からの出土遺物はほとんど無く、下半から出土する。遺物の集中して出土する地点が二ヶ所あった。次に第Ⅳ層漸移層の精査を行い、遺構のプランを明確にし、遺構の調査を開始したものの、Tピットが2基発見されたにとどまった。集中して遺物が出土した二ヶ所については平面実測図を作成した。



第2図 調査位置図・遺構配置図

以上のように9月25日から開始した発掘調査は11月8日に終了した。なお、調査期間中、ベルトコンベアー12台を使用し作業の効率化に努めた。

遺物整理作業は、11月12日から開始した。まず水洗い・注記を行い、次に土器の接合・復元を行った。これに平行して石器の実測・トレース作業を行うとともに、遺構の実測図の第二原図を作成した。そして、土器の実測・トレースと遺構のトレースを行い、これらを台紙に貼り込んで図版原稿とし、報告書を作成した。以上のように11月12日から開始した整理作業は3月27日に終了した。

3. 調査の方法

方眼杭の設定は、SB974とSB975をグリッドの基準ラインとし、基準点はSB975をB-2ポイントとし、座標値は X=-282303.547 Y=-17690.767である。グリッドポイントには、西から東へ A.B.Cとアルファベットの、南から北に 1.2.3とアラビア数字を付け、グリッドの西南隅ポイントがグリッド名となるようにした。

出土した遺物は、各層位ごとに取り上げ、集中して出土した遺物は、実測後に各個体ごとに取り上げた。遺構については、平面図・断面図等を作成した。遺構内の土層観察用の畦は、必要に応じ設定し、土層図を作成した。また、各グリッドラインに沿って土層観察を行い土層図を作成した。

これら遺構・遺物の出土状況や土層堆積状況は、すべて35mmリバーサルフィルムで撮影した。

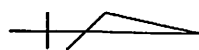
4. 調査の方法

492㎡の調査で出土した遺構は以下のとおり。

Tピット――2基
また、出土遺物の点数は下表のとおり。

出土遺物集計表

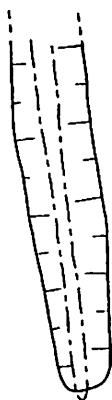
	土器（点数・重量）		剥片石器 （剥片含）	礫石器・礫	その他	小計
表土	1,027	24.7kg	107	101	4	1,239
Ⅱ層	15,361	353.1	2,629	3,675	2	21,667
Ⅲ層	4,337	94.6	1,433	1,868		7,638
Ⅳ層	246	6.1	67	75		388
遺構	81	1.9	16	26		123
その他			9	3		12
小計	21,052	480.4kg	4,261	5,748	6	
合計						31,067



A-99

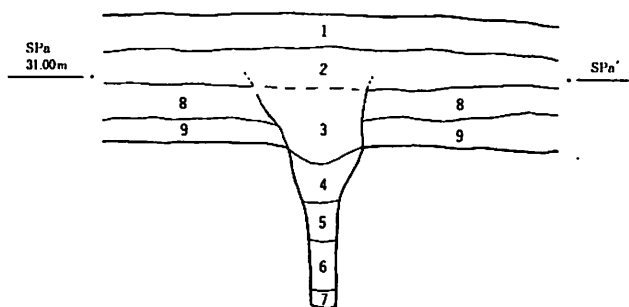
SPa

SPa'

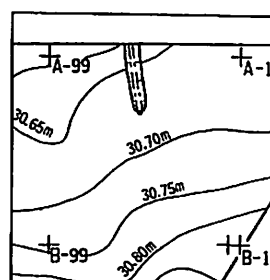


TP-1

A-99



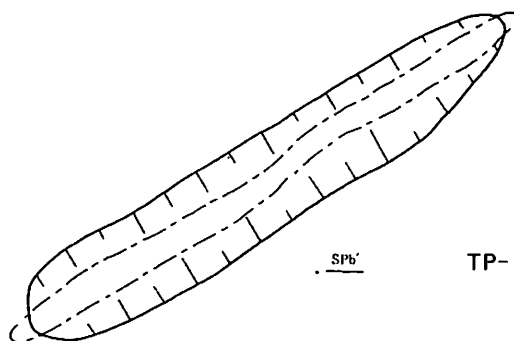
- 1 10YR5/2黒褐色土に砕石混 (第I層)
- 2 10YR5/2黒色土 (第II層)
- 3 10YR5/2黒褐色土
- 4 10YR5/2黒褐色土
- 5 10YR5/2黒褐色土に10YR5/2褐色土粒状に混
- 6 10YR5/2褐色土
- 7 10YR5/2暗褐色土
- 8 10YR5/2黒褐色土に10YR5/2暗褐色土混
- 9 10YR5/2暗褐色土 (第IV層)



B-10 SPb

SPb'

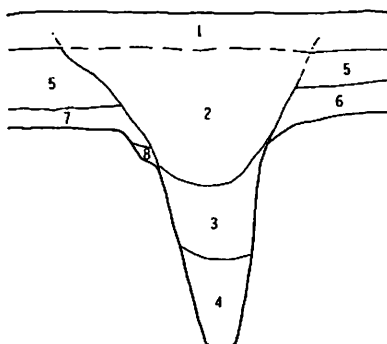
TP-2



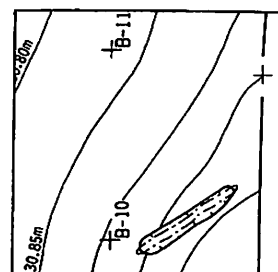
B-10

SPb

SPb'



- 1 10YR5/2黒褐色土 (第II層)
- 2 10YR5/2黒色土
- 3 10YR5/2黒褐色土に10YR5/2褐色土粒状に混
- 4 10YR5/2黒褐色土に10YR5/2暗褐色土混 (軟かい)
- 5 10YR5/2暗褐色土 (第IV層)
- 6 10YR5/2暗褐色土
- 7 10YR5/2暗褐色土 (第IV層)
- 8 10YR5/2暗褐色土



第3図 TP-1, TP-2

Ⅱ 調査結果

1 遺跡の概要

K.W. (海岸段丘、縄文前期、遺物散布地)

札前E遺跡は、松前市街の西方約10kmにある当町としては広大な段丘の中程、標高30m付近に位置し、海岸段丘の下位面(瀬川1955)にある。この段丘の海沿い標高25m付近は、擦文時代の集落跡が発見され、発掘調査を行った(久保他1985)。

さて、この段丘には、札前A～E・札前第1～3地点遺跡・トッチョ遺跡・トッチョB～C遺跡・小戸長遺跡の11遺跡が知られており、海岸段丘の下位面に分布する。こうした分布傾向は、町内全域にかけて認められ、遺跡の年代によって高度差がある。海岸段丘の中位から下位面にかけては縄文時代前期・中期が多く、下位面から低位面にかけては縄文早期・晩期そして擦文時代の遺跡が多い。さらに海岸付近の低位面には、縄文晩期と続縄文時代の遺跡が分布する。札前E遺跡は、下位面と中位面の界の下位面側にある。

今回の発掘調査地は、縄文時代前期の遺物が出土した。発掘調査の原因は、農道の改良工事によるものである。道路両側の側溝工事の切り土部分を試掘調査したところ今回の調査範囲となった。なお、道路面はそのまま残し、若干盛り土して農道改良工事が行われる。調査範囲のうち、畑として黒色土が残存していた地区からほとんどの遺物が出土した。

2 出土遺構

K.W. (Tピット)

抄録

調査区の南端と北側にそれぞれ1基ずつTピットが発見された。掘り込み面は第Ⅱ層(黒ボク)の黒色土中と考えられる。

1) Tピット

TP-1：A-99区から発見された。遺構の規模は、長軸が道路の下に潜っているため判らない。Tピットとしてはかなり幅の狭い部類である。底面に杭跡などは無く、長軸方向の中央がゆるやかに窪む断面形をしている。

TP-2：B-10区から発見された。遺構の規模は底面での長軸は3.16mである。底面の幅はやや狭く、TP-1と同様に長軸方向の中央がゆるやかに窪む断面形をしている。なお、覆土の堆積状況を示すセクションは、長軸に対し直角に実測していないので、幅が広く描かれている。

3 出土遺物

K.W. (縄文時代前期、薄片石器、硬質頁岩)

抄録

縄文時代前期中頃の土器が大多数である。剥片石器は硬質頁岩の使用が多く、黒曜石の使用は非常に少ない。

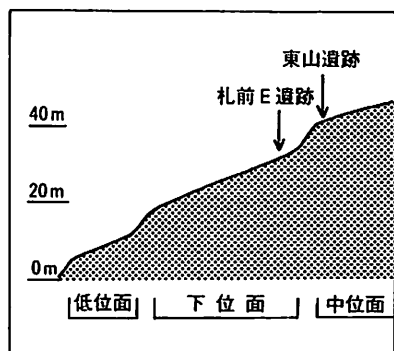
土器：総点数は21,052点で、総重量は480.4kgであった。

石器：剥片石器は、石鏃91点、石槍23点、石錐9点、つまみ付ナイフ165点、スクレイパー259点、ナイフ444点、石核58点で、合計1,049点出土している。なお、スクレイパー・ナイフと分類した中には、Uフレイク・Rフレイクと呼ばれているものも含まれている可能性がある。

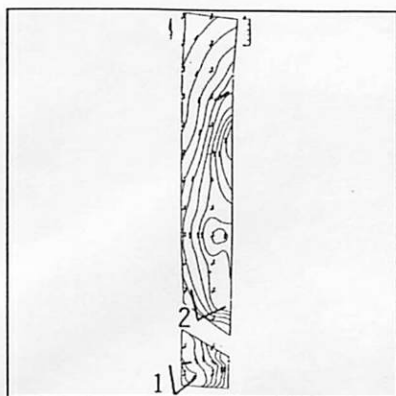
礫石器は、石斧32点、石ノミ1点、石錘1点、石鋸2点、石冠42点、スリ石9点、タタキ石9点、石皿4点の合計98点が出土した。

その他：幕末・明治の陶磁器類が6点出土した。

Ⅲ ま と め



今回調査した遺跡は、遺物散布地とは云うものの、まとまった数の遺物が集中して出土していた。今回調査した地区は、中位面と下位面の界の下位段丘側である。また、位置的にかなり離れているが、平成11年度から調査している東山遺跡（急傾斜地工事）では、中位面と下位面の界の中位面側に、縄文前期～中期の盛り土遺構と集落跡が発見さ、さらに下位面は試掘調査により縄文前期の遺物が発見されている。今回調査した札前E遺跡の調査地区は、北側に小さな沢があるものの、台地の中央に近いので集落の形成が無かったのであろうか。あるいは東山遺跡の様に、中位面側に大集落が存在するのかも知れない。



遺跡遠景 台地の先端近く、中央の縦に延びる道路の左側に札前E遺跡がある。また、台地の先端を横切る国道の右側に擦文時代の集落が発見された。海上に松前小島を望む。



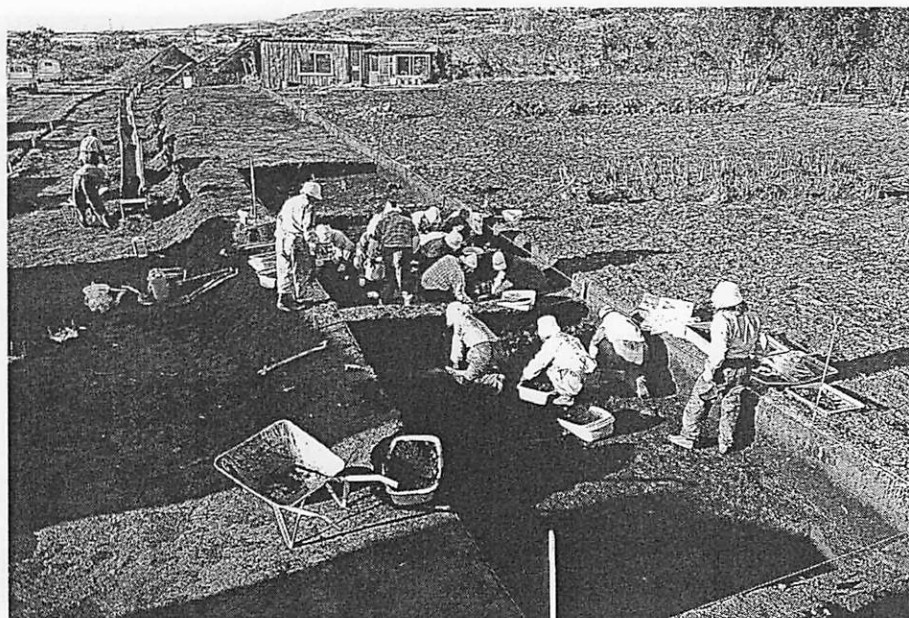
1

調査状況 手前で第Ⅱ層（黒ボク土）の調査をし、奥では表土剥ぎを行っている。

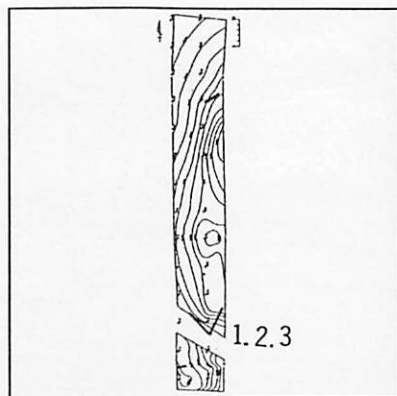


2

調査状況 表土除去後に、第Ⅱ層（黒ボク土）の調査を開始した。この層の下位から遺物が出土し始める。

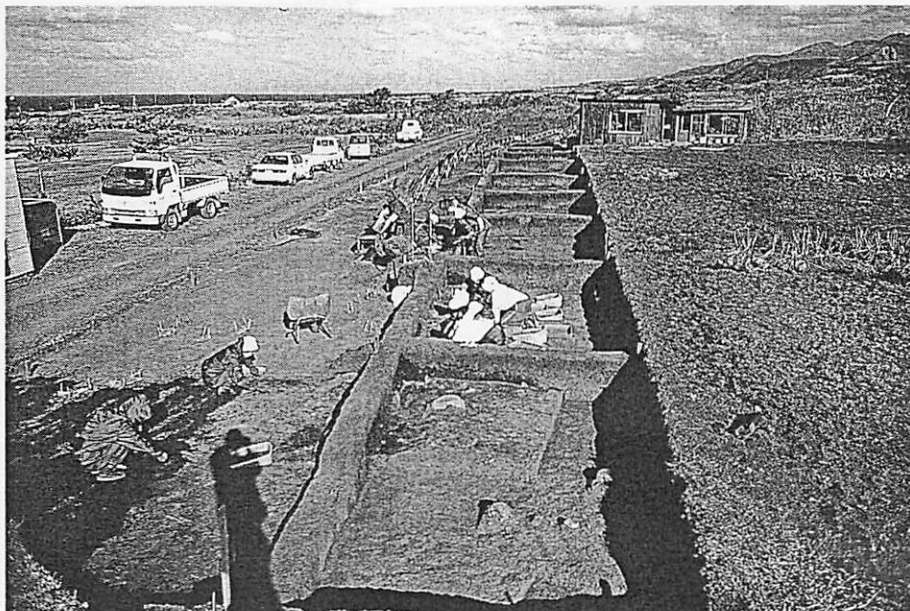


図版 2 遺物出土状況 1



1

調査状況 手前は、第Ⅲ層上面の調査を行っている。奥は第Ⅳ層まで掘り下げている。



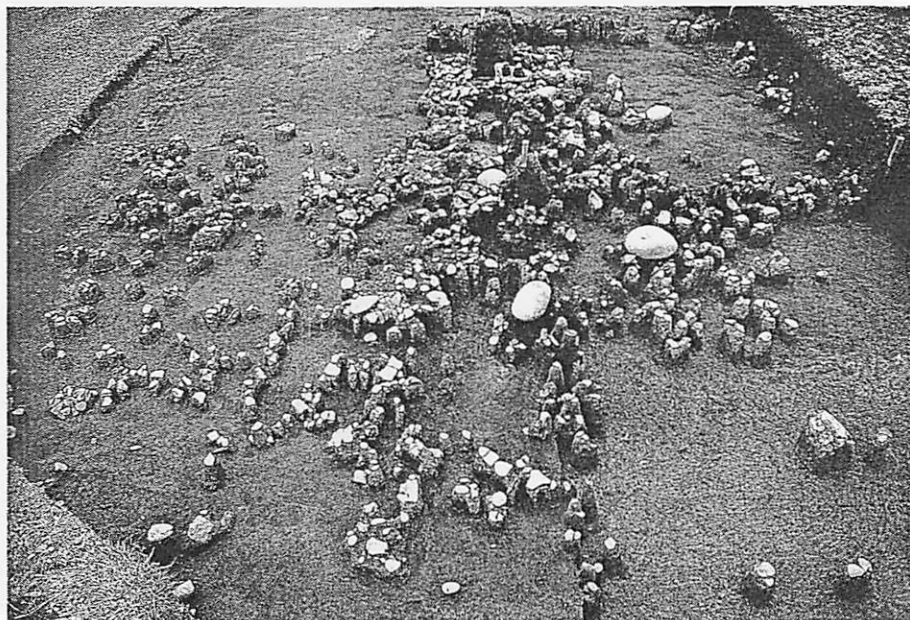
2

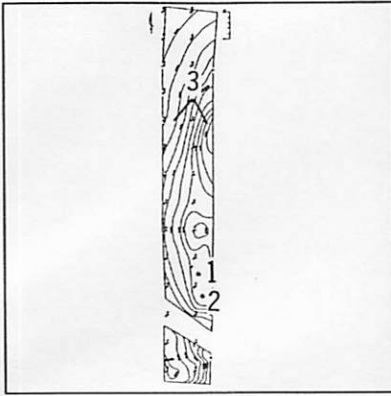
遺物調査状況 集中して遺物が出土している。平面実測と平行して調査を進めた。



3

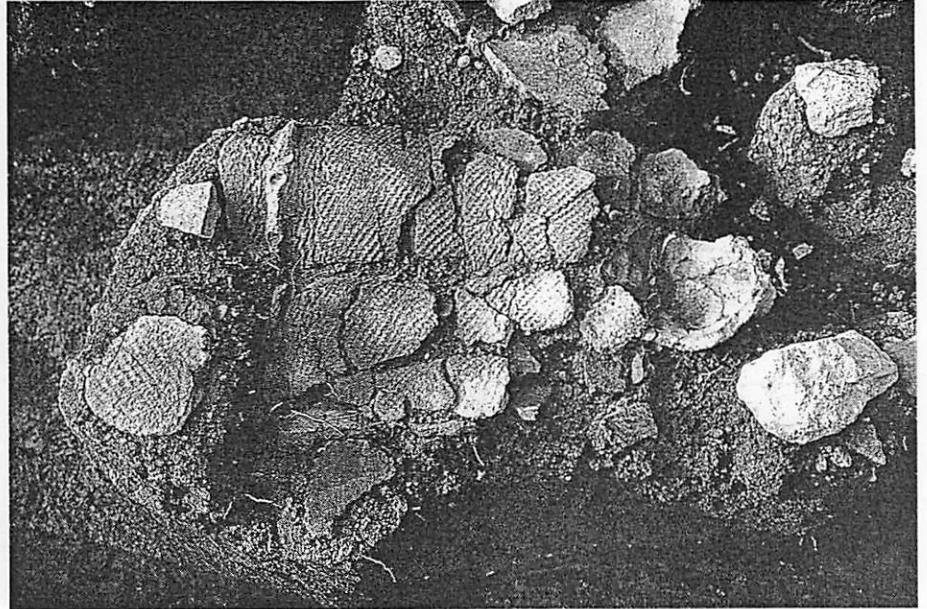
遺物出土状況 この5グリッドで、土器が約8,000点と石器類が約4,500点出土した。





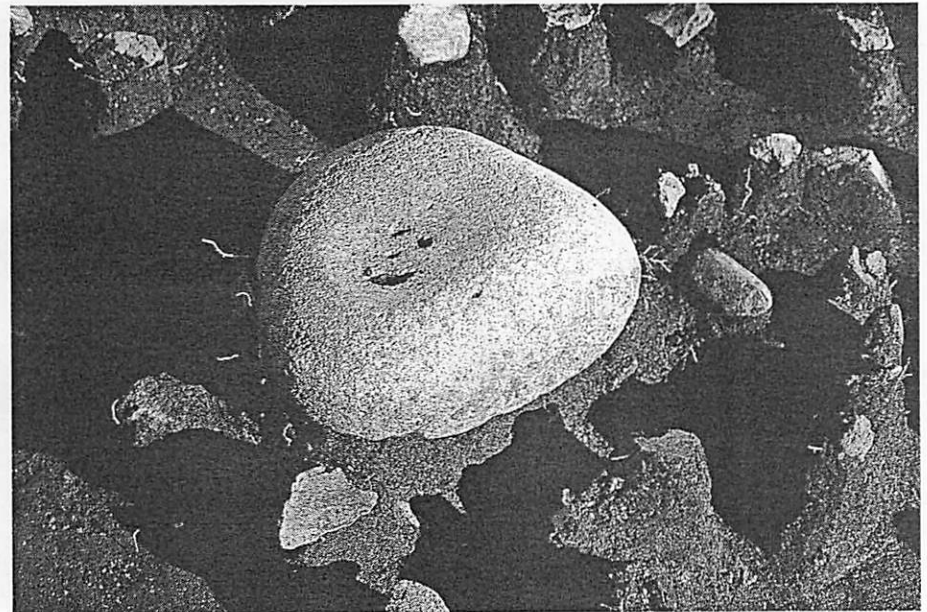
1

出土土器 縄文時代前期前半の土器である。



2

石皿出土状況 物を擦り潰す台石で其処に置かれているような状況で出土しているが、遺構の痕跡は無かった。

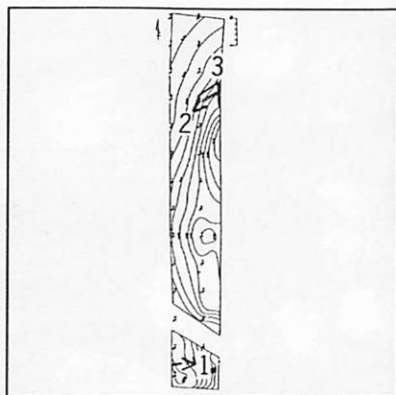


3

1, 2とは別の地点の集中出土状況で、浅い窪みを検出したが、遺構とは断定できない。

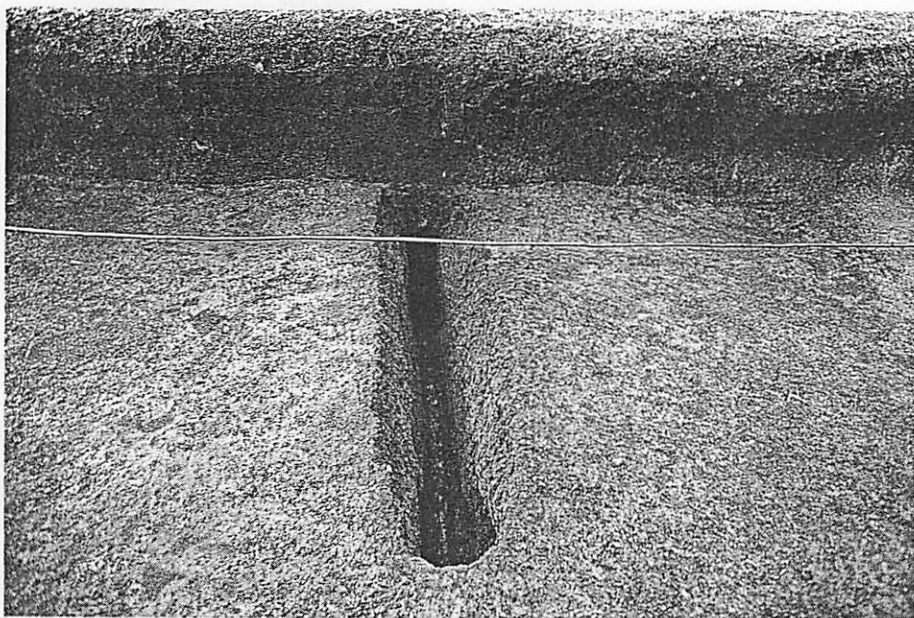


図版4 Tピット出土状況



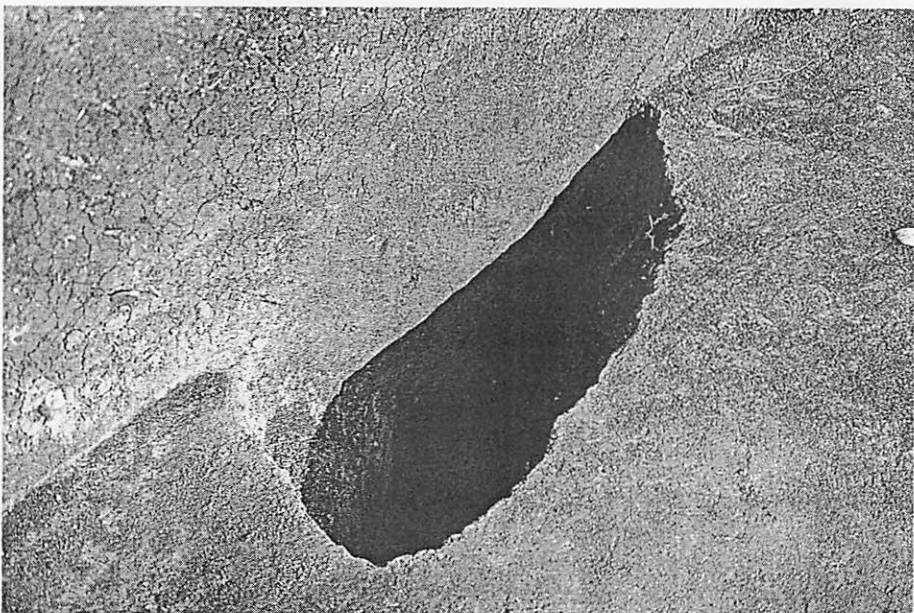
1

TP-1完掘状況 掘り込み面は第Ⅱ層中と思われるが時期がはっきりしない。



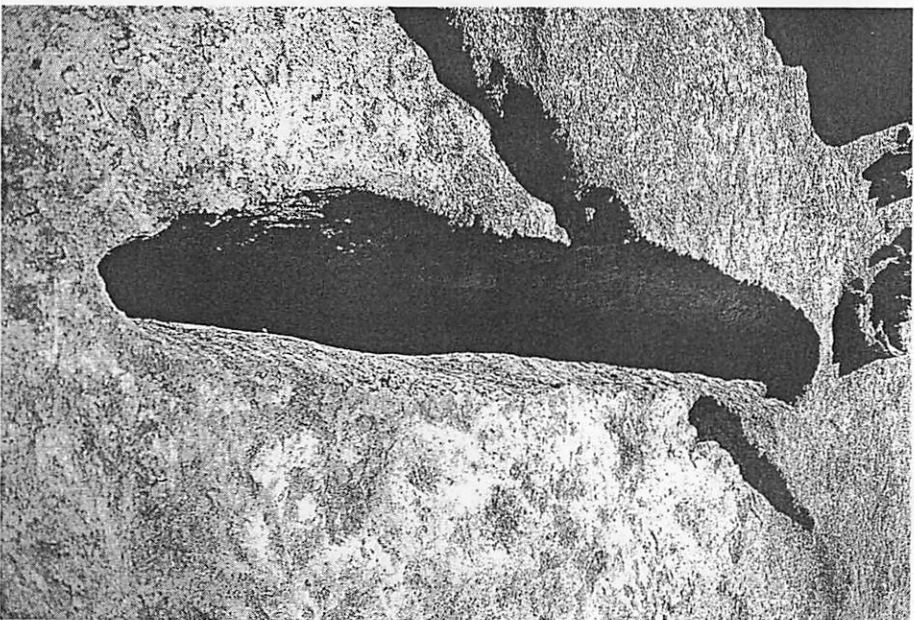
2

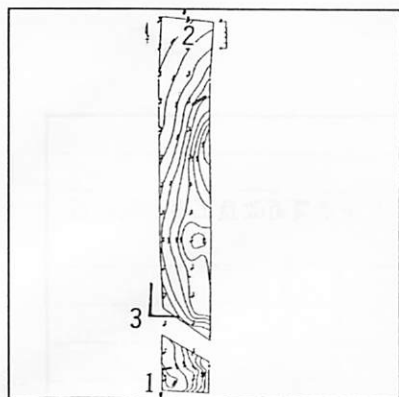
TP-2覆土堆積状況 遺構内部の覆土は非常に軟らかく、料理に使う「お玉」で掘り進めた。



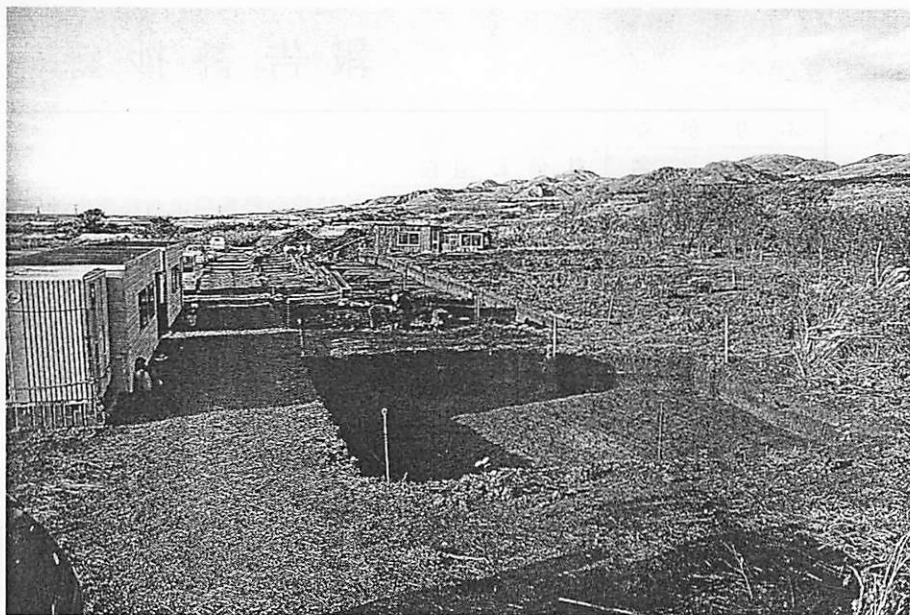
3

TP-2完掘状況 写真の都合上、右側を上にして見ていただきたい。この細くて深い溝は、鹿などの動物を捕獲するための落とし穴と考えられている。





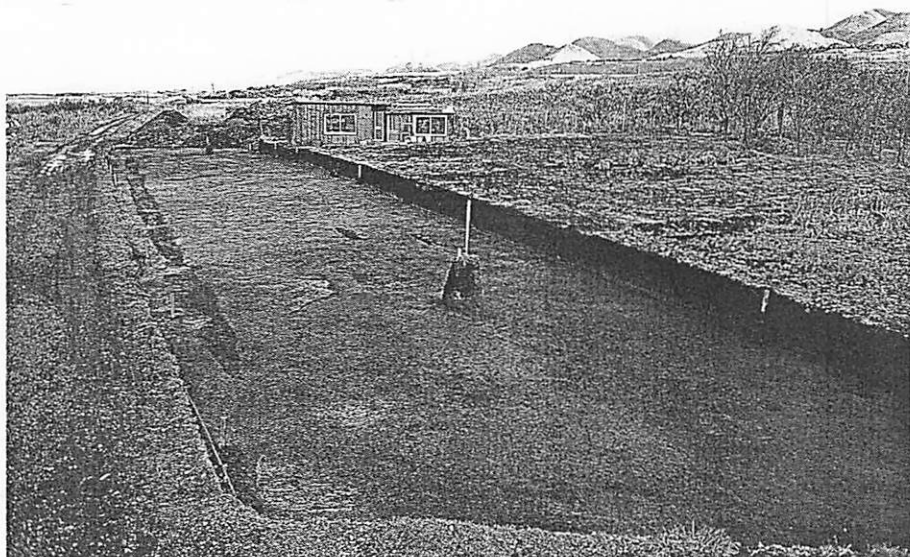
1
手前の地区はTピットが出土したものの遺物が非常に少なく、300点ほど出土した。



2
最終面精査状況 第V層ローム面がでこぼこしているのは、削平された後の植物の根によるものと思われる。



3
調査区の左側の黒いすじには、共同受信用TVケーブルが埋設されている。



報告書抄録

ふりがな	さつまえ いせき							
書名	札前 E 遺 跡							
副 書 名	平成13年度 中山間地域総合整備事業渡島西南地区第 1 号集落農道改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査報告							
巻 次								
シ リ ー ズ 名								
シリーズ番号								
編 集 者 名	前 田 正 憲							
編 集 機 関	松前町教育委員会							
所 在 地	北海道松前郡松前町字神明30番地						TEL. 01394－2－3060	
発 行 年 月 日	平成14 (2002) 年 3 月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド 市 町 村 遺跡番号		北緯 。 。 〃	東経 。 。 〃	調査期間	調査面積 ㎡	調 査 原 因
さつまえ いせき 札前 E 遺跡	ほっかいどうさつまえ 北海道松前 ぐんさつまえちやうあざ 郡松前町字 さつまえ 札前	01331	B-02-106	41度 27分 28秒	140度 2分 17秒	20010925 ~20011108	492	道路 (農道改良工事)
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
札前 E 遺跡	散布地	縄文前 ～中期	Tピット		円筒土器、石器等			

札 前 E 遺 跡

平成13年度中山間地域総合整備事業
渡島西南地区第1号集落農道改良工
事に関わる埋蔵文化財発掘調査報告

発 行：平成14年3月20日

発行者：北海道松前町教育委員会

印 刷：カジャ印刷

札前 E 遺跡
—平成 13 年度 中山間地域総合整備事業渡島西南地区
第 1 号集落農道改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査報告—
電子版

2025 年 2 月 20 日 第 1 刷

発行者 北海道松前町教育委員会
〒049-1594 北海道松前郡松前町字神明 30
TEL:0139-42-3060／FAX:0139-42-2211
WEB:<https://www.town.matsumae.hokkaido.jp/bunkazai/>
MAIL:bunkazai@town.matsumae.hokkaido.jp

底本：札前 E 遺跡—平成 13 年度 中山間地域総合整備事業渡島西南地区
第 1 号集落農道改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査報告—
(2002 年 北海道松前町教育委員会発行)

この電子書籍は閲覧を目的としているため、不鮮明な図版や誤字が含まれる場合があります。必要に応じて、お近くの図書館等で底本をご利用ください。